

(様式第7号)

大阪府高校生留学支援金留学報告書

2013年8月3日

学 校 名				支 援 金 交 付 年 度	平成'24 年度
氏 名					
留 学 期 間	平成 25 年 1 月 18 日 ~ 25 年 12 月 6 日				
留 学 先	国 名	ニュージーランド	学校名	Aquinas College	
専 攻					

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

私の通う学校は規模は小さいですがとても熱心なカトリック教で、"Special Character school"の一つでもある私立の学校です。その為、この学校に通う生徒みんなが他の学校ではみられない宗教学を必修としています。また、各キリスト関係の行事があれば、その度学校行事を行ったりミサを開いたりします。新入生のための式典ではミサが行われました。私はそこでまず異文化を体験しました。私は今まで、ミサに参加したことがなく、それについて何一つ知りませんでした。私はそこでミサがどのように進行され、何のために何をするのかなど、ここで一つ私の世界が広がりました。

私は毎日、ホストファミリーに必ずその日の出来事やその他でもニュージーランドで疑問に思った点や、日本との違いなど、何でもいいからとにかく自分から話題を探し出し、話し掛けることに決めました。原地の人と少しでもコミュニケーションをとるということは留学生にとって最も成長する近道だと私は考えました。これは話す力や聴く力に効果的なのはもちろん、人と人とのつながりを作るきっかけでもあり、そこで様々なことを得ることが出来ます。初めの方は英語に慣れてないのもあり、人に話し掛けることとても勇気がいって、そして会話となっても、とても緊張しました。しかし私は努力することをあきらめない、自分でやると決めた事を途中で止めない、決して妥協しないと心から決めているので、ホストマザーに毎日話し掛けることを続けています。彼女は嫌がらず、しっかりと私の話を聞いてくれます。そして悩みや相談事も話せるようになりました。この事で私は積極性を身に付けることができ、又、話している中で色々な自分とは異なった考え方や意見を素直に

受け入れさらに、それらを比較できるようになりました。ここで私は柔軟に物事を考える力と協同性を身に付けられたと思います。

私は“友達”という壁にぶちあたりました。学校開始初日からずいぶんおおよそ半年間一緒に昼ごはんを食べていた子たちと関係が中々進展しませんでした。その間、何回も自分に良い方向へプラスな事を言い聞かせながら、あきらめずじっとねばっていました。つい今ままで抱えていた焦りや不安、プレッシャーなどに我慢できず、それにより初めてホームシックにかかりました。ホストファミリーのアドバイスもそう簡単には上手いかわなく、一週間考え込んで泣く日々を経過しました。しかし私は原地の友達を作ることをあきらめず、日本人と固まることなどせずに、新しい友達を見つけることが出来ました。これは自ら進め道、楽な道を選ばずに、自分で新しい道を見つけられたということであり、私は前向きな行動ができるという自信を付けることが出来ました。そしてこの甘えたり、消極的にならず、自分の力で立ち向かい、乗り越えたということが、自分の精神力を強くしました。これからはつらい壁にぶつかった時、この出来事や経験をバネに乗り越えて行きます。

留学でどれくらい語学面でも人間面でも成長できるかは、その人が原地の人とどれくらい長く一緒に過ごし、コミュニケーションをとり、そしてどれくらい多く母国、母国語から離れるかによって左右されます。学校でも自分以外に日本人がいたなら必ず日本人同士で固まらないで下さい。授業クラスが同じなど、やむを得ない場合は席を遠ざけるなど離れる努力をし、会話をする時は必ず英語を使って会話をして下さい。ずっと日本人同士で固まり、日本語を使わず日本語を使って会話をするとその人たちの印象が悪くなり、原地の人や外国人はどんどん遠ざかっていきます。話し掛けることも話し掛けることも困難になっていきます。又、留学先で日本語を使うということはその人の留学に全く意味をなしません。日本や日本語から離れることは初めはつらい部分もありますが、自分の留学で成長する大きなポイントです。そして語学留学は誰もが出来ることではありません。留学に行けることの幸せに気付き、何事にも怖気付かず充分に楽しむことが大切です。その為には、毎日、その日に出来る小さな目標を持ち、その達成を積み上げることが大事になってきます。又、毎日欠かさず、英語で日記を書くこと、その日の出来事、感じた事や自分のこと

上記の内容については、公表される場合があることを了承します。
(申請者がしてください。)

だけでなく、友達や家族など、他の人の様子、その人たちがやった事や聞いた話など、何でも書き、そしてそれを毎日ホストファミリーにチェックしてもらうことがとても重要です。書く力に力果的なのはもちろん、ホストファミリーとのコミュニケーションにもとても役立ちます。彼らとのコミュニケーションは留学で最も大事なことの1つです。なぜなら彼らは最も身近で、留学中に最も長く時間を過ごし、そして困った時には助けられるというような、とても大きな存在だからです。これはそんな人たちとの絆を作る最高の方法だ"と思います。そして更に、チェックを受けた後、それを朗読の練習をすれば、読む力や話す力に効果的なものと共に、次の日に友達や先生などと会話をする練習にもなります。私以外の3人の日本人は英語日記をしていませんが、ESOLの時間にら分間でどれだけ文章が書けるのかという取り組みをした時に、彼女たちが"数行に対し私はその後以上書けることが出来ました。その時初めて私はこの英語日記の効果を実感しました。又、自分がしている行動を客観的に見て、この行動が"誰にどのような影響を与えるのか常に意識して行動すること、そしてどんな時も相手の立場になって考えることを決して怠らぬに過ぎることもとても重要です。これらは自律につながり、失敗を最小限に減らす近道でもあります。そして、失敗をした時はその原因を遡及し、自ら解決策を見出す努力をすること、自分に甘い性格の人や、すぐに消極的になる性格の人は、それを直すということを留学中の目的の1つにし、なぜ"どのように自分はこう考えるのか、これを違ったとらえ方で考えてみるとどうなるのかよく考えること、そして他の人の意見を純粋に受け入れること。これらは協調性、柔軟な物事の考え方、視野の拡大につながります。又、小さな事は気にせず忘れられるくらいに、そして常に笑顔を心掛け、物事は全て前向きに考えていきましょう。前向きな人は強く、そして人生をより楽しんで"いると私は思います。

上記の内容については、公表される場合があることを了承します。
(申請者がしてください。)